

国立極地研究所 主催
ArCS II イベントシリーズ

／入場無料／

ようこそ、北極へ！

シベリア永久凍土から 明らかにになる温暖化？ ～実験教室～

参加
無料

2024年
7/26 (金)
14:00～15:30

提供：矢吹 裕伯 (国立極地研究所)

内容：氷や水を使った実験を通して、永久凍土の特徴や地球温暖化による影響を学びます。

講師：矢吹 裕伯 (国立極地研究所)

会場：国立極地研究所

対象：中学生・高校生

定員：先着 20 名 (事前申し込み制)

持ち物：筆記用具、電卓



参加者
大募集!!



申し込み方法

申し込みフォームよりお申込みください。
右の QR コードを読み込んでください。



永久凍土って知っていますか？

2年以上にわたって0℃以下の地盤のことです。永久凍土は北半球の大陸の約20%に広がっています。また永久凍土の上部には夏の間融けている活動層があり、シベリアでは広く針葉樹が広がるタイガ地帯となっています。

いま温暖化により、永久凍土の上部にある活動層の厚さが年々厚くなっていることが報告されています。

では温暖化によって永久凍土が融けるためには、どれだけのエネルギーが必要なのか実験をして確かめましょう。



▲ツンドラ地帯の凍土の下にある氷塊



▲極北ツンドラ地帯での永久凍土の調査



講師からのメッセージ



矢吹 裕伯
国立極地研究所



私の専門は情報学です。

しかし、そもそもの専門は寒冷地において、地球温暖化の現状を観測的に研究することです。特に、中国のチベット高原や、ロシアのシベリア地域、モンゴルなどの永久凍土地帯で、地温や水循環の変動を解明していました。

現在は、このような広域での観測データを管理しつつ、寒冷圏を主な対象とするデータセンターを構築、運営しています。

温暖化の影響を大きく受けている永久凍土地帯で、温暖化の兆候を測定することはとても重要です。測定といえば簡単ですが、永久凍土地帯での温度測定がどれほど難しいか？ その実体験を紹介します。また、永久凍土を融かすにはどれだけのエネルギーが必要かも実験してみましよう！

また当日は凍土がどのようなものか観察できるように、凍土のサンプルも準備する予定です。